

ハンディ元素分析器 MH-5000 「科捜研の女」に登場しました！

弊社のハンディ元素分析器 MH-5000 が、ドラマ「科捜研の女」に採用されました。撮影スタッフのご厚意で、一部画面を頂きましたので、紹介させていただきます。



放映日

2019年8月15日放映 シリーズ20周年（1年間放送）第13話「お茶の達人」

<https://www.tv-asahi.co.jp/kasouken19/story/0013/>

場面

お茶の成分中のマグネシウムとカルシウムに着目して、多くの種類の水を実験室に集め、証拠品に残るお茶のシミと、実験室で淹れたお茶を比較しながら、お茶に淹れる時に使った水を絞り込む場面にて、主役の榊マリコさん（沢口靖子さん）にご利用頂きました。

撮影日

京都・太秦の撮影所に伺い、沢口靖子さんと助監督さんに実際の操作方法を説明させて頂いた上で、撮影用の簡易手順やテーブル上の器具配置などの検討に参加させて頂きました。

画面抜粋

2~3ページをご参照下さい。全て沢口さんご自身が操作されました。

専門家向け補足

4ページをご参照下さい。

連絡先

株式会社マイクロエミッション 山本 保
sales@microem.co.jp 電話 050-5236-1111

画面（1） サンプル注入 マイクロピペットを用いたサンプル注入



サンプル注入は、通常はテーブルで行いますが、今回は演出上の都合で、持ち上げて操作することになりました。注入量は、40 μ L（1mLの1/25）を、2回入れて頂きました。

画面（2） サンプル注入（アップ） 石英製測定容器 LepiCuve-C へのサンプル注入



石英製測定容器 LepiCuve-C はハンディ元素分析器 MH-5000 専用の測定容器で、サンプル注入用の2つの縦穴があり、中で繋がっています（発光原理の重要ポイント）。裏面の中央に窪みがあって、次に MH-5000 の測定部に置く際の位置合わせになっています。

画面（3） 測定容器セット サンプル注入済の測定容器を MH-5000 にセット



石英製測定容器 LepiCuve-C を、ハンディ元素分析器 MH-5000 の測定部に置きます。測定部は、光ファイバ先端が突起になっていて、その上に、LepiCuve-C の裏面中央の窪みを位置合わせして置くと、発光部と光ファイバ中央の位置合わせとなります。

画面（4） フタ閉め MH-5000 のフタを閉めると、測定準備完了



フタの裏から 2 本の白金電極が出ており、フタを閉めると、白金電極が測定容器の 2 つの穴に入り込んで、電気伝導度の事前測定など、測定準備を行います。

専門家向け補足

- ・液体試料の元素分析を行う装置です。
- ・プラズマ発光分光方式ですが、液体電極プラズマという独自原理を採用しているため、アルゴンなどのガスを使いません。そのため、高圧ガス配管、排気ダクトなどが不要で、コンパクトな装置となっています。
- ・商品ラインナップは以下の通りです。
 - ハンディ元素分析器 MH-5000 ← 今回放映、小ささ優先
 - ポータブル元素分析装置 MH-6000A ← 業務用モデル

詳しくは、弊社 HP(<http://www.microem.co.jp>)をご覧ください。

原理、装置比較、元素別感度、よくある質問、、、など、掲載しております。

以上